

小学校までに

3月特別増刊号
=480円

「当たり前が できる子」に!

～親がやっていいこと・ダメなこと～

挨拶ができる

人の話が聞ける

素直に謝れる

命を
大事にできる



友だちを
思いやれる



人間としての「当たり前」は 理屈を抜きにして伝える!

挨拶や早寝早起き、思いやりの精神などを子どもにしつけたり教えたりしようとしても、「なんでやらなきゃいけないの?」の反撃に遭って、うまくいかないことがあります。

そんなとき、「それがウチの決まりなの!」と言い切ってしまうと、実は子どもは安心するものなのです。



たかはしままさのぶ
高濱正伸

(花まる学習会代表、NPO法人子育て応援隊むぎくみ理事長)
東京大学農学部卒業・同大学院農学系研究科修士課程修了。「この国は自立できない大人を量産している」という問題意識から、「メシが食える大人に育てる」という理念のもと、「作文」「読書」「思考力」「野外体験」を主軸にした学習塾「花まる学習会」を設立。算数オリンピック作問委員。日本棋院理事。

「人間として当たり前のこと」と聞いて、みなさんは何を思い

浮かべるでしょうか。「挨拶をすること」や、「人にやさしくすること」など、いろいろあるで

しょう。

「当たり前」は人によって千差万別です。育った環境・時代などによって、Aさんの「当たり前」はBさんの「非常識」にもなり得ます。

このズレは、あらゆるところで起こります。たとえば夫婦の間では、「食事は家族そろって食べるのが当たり前でしょ」「た

だいま」と言えば『おかえり』と返事をするのは当たり前だろうなど、「当たり前どうしのぶつかり合い」が頻繁に起こります。

ささいなことでも話し合ってす

り合わせ、譲り合いと共通理解を得ていくことが大事です。

子どもは「理屈」ではなく「信念」でしつける!

子どもに「当たり前」を伝えるにあたっては、強固な合意が必要です。

「家族全員で守る『当たり前』を、まずは夫婦で話し合っておくことが必須です。両者ともに重要視していることを書き出して、「早寝早起き」「ワソをつかない」など、両者が合意したものが第一歩です。

では次に、それを子どもに確

でしようか。

口うるさく言つのはNG。しつこく何度も、あるいはヒステリックに伝えたところで、子どもは聞く耳をもちません。ここで肝心なのは、「毅然とし

た態度で言うこと」です。たとえば、「ウチではゲームをやっていいのは30分まで」と決めたとしましょう。

よくあるのは、「なんで?」といふとき、しばしば犯してしまいがちな失敗は、なんとか理屈で答えようとしてしまうこと。

「ゲームばかりしていたら夜ふかしもするし、目にも悪いし……」などと答えて、子どもが、「でも、お友だちの家では

ずっとやつてゐるよ」などと口答えをするでしょう。ここでも、「当たり前は人それ違う」の法則が当てられます。

ここは理屈抜きに、「これが切つてしまふのが、実は正解です。「なんで?」「なんで、じゃない!「ウチはこうなの!」と、ピシッと答えましょう。

重要なのは、なぜそれが正しいのかという「理屈」ではなく、こう決めたからそれを貫くという、親の「信念」なのです。

何よりも大事なのは 約束を守ること

ここまで話でおわかりのように、「当たり前」に正解はあります。

ません。しかし一方で、社会を生きいくうえで、誰もが守るべき「当たり前」も確かにあります。

まず一つ目が、「挨拶」です。

おはよう」「いただきます」「ありがとうございます」「お願いします」と

いった挨拶はやはり、円滑な人間関係を築くための原点です。

二つ目は、「悪いことをしたら謝る」。これは、善惡を自分の頭で考える基礎になります。

自分を客観視し、自分の非を直に認める勇気も育ちます。

三つ目は、「早寝早起き」。少なくとも、早起きだけは習慣化させたいところです。

この習慣が根づいていない子どもは、「毎朝ちゃんと起きて活動する」ということを苦痛に

感じじるようになります。少しでもつらいことがあると会社に行けなくなってしまう若い社会人には、そもそもこつした習慣を身につけていない傾向が強く見られます。

毎朝、決まった時間に起きて動くクセを身体に覚えこませるだけで、ストレスに対する耐性は確実に上がるものです。

そして4つ目は、「約束を守ること」。友だちから借りた漫

画やゲームを「明日返すね」と言つたら必ず返す、といったこ

とです。「どうせ、あさつても会うから」など、返さない言い訳はいくらでも立ちますが、だからこそ守ることに意味があります。これは実際のところ、「子

どもの将来に関わる」と語えるほどの分かれ目であり、すでにお気づきかもしませんが、前述の1つ目~3つ目を守れるかどうかかも、これにかかっています。

約束を守れる人は信頼されま

す。信頼は貯金と同じで、小さな行為の積み重ねによって築かれるものです。たとえば信頼の貯金残高が多い人は仕事で信用され、同僚や取引先と緊密な関係を築き、ピンチのときにも人

の助力を得られます。これはお金以上に大事な「生き抜くための資産」と言えるでしょう。

「命」や「思いやり」の大切さは 親が行動で示して伝える

「命」や「思いやり」の大切さなど、道徳や倫理の根幹に関わる「当たり前」もあります。

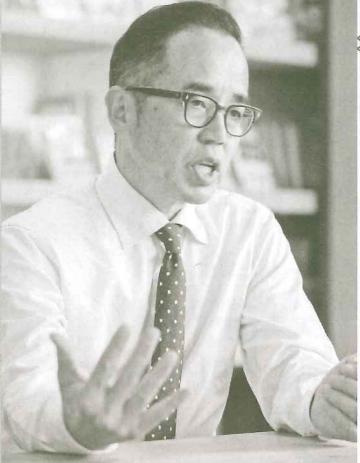
言葉でルール化をするのは難しいですが、確実に伝える方法があります。それは、親が行動で示すことです。

困っている人にに対する親切、人に対する配慮、命あるものに対する愛情。子は親の姿に学び、同じ姿勢を備えていきます。また、多様な人と関わりをもたせるこども有効です。外国人、

高齢者、ハンディキャップのある人など、「自分とは違う生活を送る人」と密に接することは、思いやりや広い視野を育てる素晴らしい土壤になるでしょう。

おばあちゃんの死などは、それまでの人生觀を変えるくらいの体験になります。可愛がついたペットの死も、命の有限さを心の痛みとともに知る機会です。

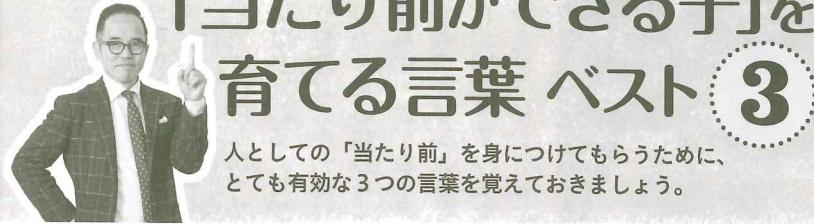
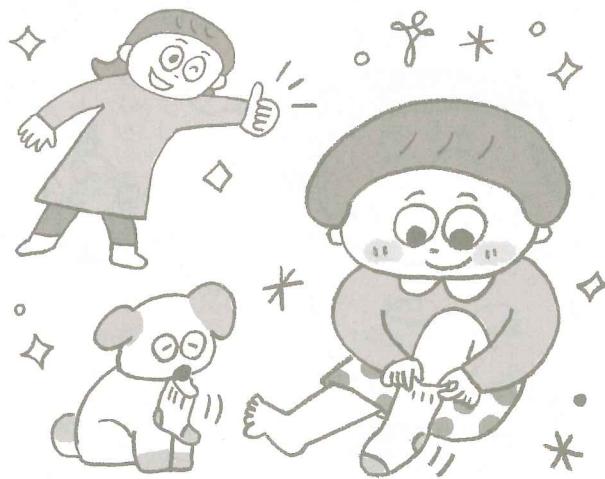
子どもの心はそのとき、間違いない強く強い衝撃を受けます。しかし、それゆえに理屈抜きに「命を大切にしよう」という思いが生まれ、やさしく強い人間へと育つていくのです。





自分でちゃんとできる子に

朝は自分で起きる、挨拶する、部屋を片づける……。
幼いうちから、1人の人間として
身につけておいてほしいことがあります。



「当たり前ができる子」を育てる言葉 ベスト 3

人としての「当たり前」を身につけてもらうために、とても有効な3つの言葉を覚えておきましょう。

① 「ウチはこうなの！」

「なんで遊ぶ前に宿題しなきゃいけないの？」「あの子の家は違うよ」と聞かれることは日常茶飯事です。

ここで理屈を説いても不毛です。「ウチはこうなの！」と、毅然とした態度で伝えましょう。

この対応は一見理不尽なようで、実は子どもの心を安定させます。理屈を説くよりも「わかりやすい」からです。「ウチの親、宿題やってからじゃないと遊んじゃダメって言うんだよ～」と不満顔で友だちに語りつつも、心では強い安心感を抱くものなのです。

② 「どうしてあげられるかな？」

「思いやり」や「やさしさ」は言葉で伝えることが難しいのですが、親の「行動」は強く伝わります。親が日々の行動の中で人を思いやり、助けようとする姿勢を見せれば、子どもは人の痛みや苦境を敏感に察し、自分も人を助けたいと思えるようになります。

困っている人の話を聞いたら、「つらそうだね」「どうしてあげられるかな？」と問いかかけましょう。子どもは、自分の力で助けられない状況であっても、何ができるかを考えるようになるでしょう。

③ 「すごいなあ！」など感動を示す言葉

美しいもの、心が動くものを感じとる力——つまり「感性」を育てるときも、親が背中を見せることが大切です。四季折々の空気や風景、絵画や音楽など、自分が「すばらしい」と思ったものを子どもと一緒に味わい、「すごいなあ」「キ

レイ！」「うわあ……」と感動を言葉で示しましょう。

そのとき、親も心から感じていないと意味がありません。無理に高尚な芸術を見せるのではなく、親自身が本心から笑ったり、感動しているものを見せるのが一番です。